

# あたたためて

〈家庭の同行21〉

## 引きださされる力



NPO 法人くだかけ会代表

和田重良

1948年小田原市生まれ  
くだかけ生活舎での共同生活（人生科や農作業）をとおして、青少年や家庭の生活にさまざまなメッセージを送っている。

## 子どもの重荷

人間は生きて行くのに多かれ少なかれ「荷」を背負わされています。

自分で背負っているものもあれば、人から背負わされているものもあります。それに「社会」という化

け物に背負わされているものもあります。

大人なら地位名声、見栄外聞、世襲財産エトセトラです。

### 子どもの重荷

さて、今年度は一年間「かわいい」ということについて考えてみましょう。

「かわいい」という日本語は最近けっこう国際語になっているらしいですね。まあ、今年度テーマにしようとしている「かわいい」はそれとはチョッと違って「かわいいがる」という意味でのことです。

赤ちゃんを見てたいの人は「かわいい」と言いますが、親の思う赤ちゃんのかわいさは格別でして、よく「目の中に入れても痛くない」なんていう形容があるくらいですから、何よりも赤ちゃん中心で、どんなことしても「かわいい」のです。

ところが、親の方も未熟なものだから時として溺愛といわれるような行き過ぎをしたり過干渉になって自立を妨げたりしてしまうのです。

そうすると「かわいい」の主体はどこにあるのかという問題が突き刺さってくるわけで、それをまち

がえると子どもたちには「重荷」となってしまいうけです。

一方、赤ちゃんには「かわいいがられる」必要性というものがありません。その必要性とは何よりも「情」の分野が満たされていく、人間としての精神活動の基本という大切なものなのです。

赤ちゃんが「私はかわいいがられている」とは思わないのですが、思う以前の「情」の満足があるので「知」だけで育てられているとあたたかいものが足りなくなるのです。それが重荷になっていきます。

### 子どもはペットじゃないから

人間の子どものように無闇矢鱈にかわいがつていられないというわけにはいきません。ペットは「自我意識」が成長することはないのですから「猫かわいがり」ができて、人間の子どもの成長に従って「自己」の形成がなされて行かなければならないのです。（拙著『悩める14歳・そこから出発』を参照）

まず何より、子ども（相手が大人でも）はあなたの思い通りにはならないってことを確認しておいた方がいいですね。思い通りなんかならないのが当たり前なのですから。

親子といえども別人格です。親の満足を押しつけることはできないのです。親の役割は、「あたたかく子どもの成長を見守る」ことにあります。

「この子らしい」という特長の中で、この子の伸びやすい条件を作つてあげることがジックリと腰を据えてやらなければならないのです。

### 励みにならないこともある

「あたたかく子どもの成長を見守る」の正反対は「ムリヤリ子どもを前から引張つて行く」ということになるかと思えます。

子どもを前からギューギューと引張つて行く子どもへの負担はどんどん重くなつてしまします。しまいには引張つてもらわれないと動けなくなります。そしてとうとう引張つても動かなくなつてしまうのです。

そういう親の不安や焦りは子どもへの冷たい対応

になつてしまいます。

もう一度余分な力を抜いて「あたたかく見守る」と隠れた能力が芽を出すこともあります。

○評価は重荷になります……良いも悪いも「評価」はアテになりません。「評価」されることで頑張ろうと思ふこともあれば、ガツクリやる気をなくすこともあるのでアテにならないのです。

○比較は極力さけて……兄弟姉妹や近所の同級生との比較をいついしてしまいがちです。親の方は

気軽にしてしまうことも、子どもにとっては重荷になつてしまいます。大人になつても職場でつい比較されるとイヤな気持ちをするものです。

○家柄・親の職業・親の生活ぶり……良くも悪くも子どもの負担となつてしまうことがあるのです。

少しでも重荷にならないようにするには、やはり「あたたかく見守り」人生の道の自由選択を基本にしていくのがいいのです。

## 自然の風景

### 春は野に山に

華かびの萌えいずる春の休みは、どうか日頃気になる勉強をすっかり忘れて時々野に山に出ようではありませんか。野にも山にも、平生忘れていた「自然」が満ち満ちています。家の中に引き込んで心に描いていた自然とはまるで違つた本物の「自然」が草の葉一筋にも、木の

幹の裂け目にも、小さな花にも、それに慕い寄る虫たちの中にも満ちているのを感動を以つて発見するでしょう。その「自然」を見る目が失われることは恐ろしいことです。

和田重正著「山あり、花咲きて 父母いませり」より

